

上内手遺跡 第10地点

遺跡名	上内手遺跡
よみがな	かみうちでいせき
調査地点	第10地点
主な時代	弥生時代後期～古墳時代前期（約1800年～1600年前）、平安時代（約1150年前）、戦国時代（約600年～約500年前）、江戸時代（約250年前）
調査地	富士見市大字上南畑字上内手14-1他
調査面積	5843, 52 m ²
調査期間	平成30年6月6日～9月18日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡16軒 弥生時代の方形周溝墓1基 平安時代の掘立柱建物跡1棟 井戸跡1基 戦国時代の溝跡2条 江戸時代以降の掘立柱建物跡1棟、 墓坑1基、井戸跡4基</p> <p>【出土した主な遺物】 弥生時代後期～古墳時代前期の壺、甕 平安時代の須恵器甕、戦国時代の瓶類、火鉢 江戸時代の碗、皿、播鉢、焙烙、甕、銅銭</p> <p>【概要】 上内手遺跡は、市内を縦断して流れる新河岸川によって形成された自然堤防上に位置しています。 当遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期の遺構が検出される遺跡で、これまでに竪穴住居跡が20軒以上確認され、低地である自然堤防上にも当時の人々が生活をし、集落を形成していたことが明らかとなっています。 今回の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡が16軒確認されており、住居跡内からは壺や甕などの赤焼けの土器が出土しています。また、竪穴住居跡から若干の距離を置いて同時代の方形周溝墓が検出されており、集落以外に墓域が存在することが分かりました。また、別時代の掘立柱建物跡や火葬墓、井戸跡等が検出されており、当遺跡が所在する自然堤防上では弥生時代以降に様々な形で土地利用がなされていたことが明らかとなっています。</p>



四本柱の竪穴住居跡



住居跡内出土の多量の土器片



ほぼ完形で残っていた壺・甕



方形周溝墓出土の壺



確認された掘立柱建物跡の柱穴



江戸時代の溝跡完掘状況



江戸時代墓坑出土の六文銭とかわらけ



発掘調査終了状況